

投資的事業評価調書（新規）

部課室名	農地整備課 農村環境整備室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	室長（農村環境整備担当） 梶原 孝嘉 (課長補佐兼開発係長 二位孝夫)	内線	4027 (4022)
------	------------------	---------------------	---	----	----------------

事業種目	農村整備 (中山間)	事業名	事業区間	総事業費	
		中山間地域総合整備事業 (一般型)	生野地区	9億円	
所在地			着工予定年度	完成予定年度	
朝来郡 生野町			14	18	
事業の目的			事業内容		
<p>鳥獣害防止柵の全町的取組みをはじめ、老朽化した用排水路の整備や防火施設の設置など、生産基盤と生活環境基盤の総合的な整備を行い、定住条件の改善を図る。</p> <p>特に、町の中心部から最も遠方の黒川地区については、都市住民との交流を促進するため、体験農園として活用できるよう生産基盤条件の改善や遊歩道、交流センターなどを整備し、地域の活性化を図る。</p> <p>事業主体：生野町</p>			<p>鳥獣害防止柵：L = 10.7km [国：55%、県：6%、町・地元：39%] 農業生産基盤 (用排水路 L = 7.8km、農道舗装 L = 6.4km、暗渠排水 A=4.1ha、客土 A=0.1ha) [国：55%、県：0%、町・地元：45%] 集落防災安全：消火栓 3箇所 [国：55%、県：12%、町・地元：33%] 交流施設：交流センター 1棟 ふれあいの道：緑道 L = 760m [国：55%、県：3%、町・地元：42%]</p>		
評価視点		評価結果の説明			
(1) 必要性		<p>生野町は、瀬戸内海と日本海の分水嶺に位置し、源流地として水源かん養・洪水防止など多面的機能の維持に重要な役割を担ってきた地域である。こうした機能は、持続的な農林業の営みと人々が住み続けることによって維持されてきたが、過疎化・高齢化(29%)などにより耕作放棄地(4.8%)が増加し、機能の低下が懸念される状態となっている。</p> <p>このため、町内においては、地元組織である生野塾（現在8ブロック）、遊ぼう会（黒川地区）を主体とした住民レベルの参画による地域振興の計画づくりが行われ、農村の人々の定住条件である生産基盤と生活環境基盤を早急に整備することが必要となっている。また、都市住民との交流を促進して地域の活性化を図る意欲のある地域については、交流施設等の整備を進める必要がある。</p>			
(2) 有効性・効率性		<p>生産基盤の整備により、畑作営農を振興し、黒大豆を活かした特産品加工や体験農園としての活用等を進めることが可能となる。</p> <p>また、黒川地区を核として開かれた農村づくりを推進することによって、交流人口の増加が期待できるとともに、遊ぼう会などの地元組織の育成や内発的な地域活性化が図られ、農業・農村の持つ多面的機能の維持・保全に寄与するものである。</p> <p>なお、投資効率は1.40、所得償還率14.7%であり、事業効果は十分に期待できる。</p>			
(3) 環境適合性		<p>本事業は、農地の機能保全と活用を促進するための整備であり、地形を大きく改変する工種はない。交流センターや緑道などの整備については、地域材料（県内産木材）を多用するなど農村景観や周辺環境に配慮した工法を用いる。</p>			
(4) 優先性		<p>播磨地方、但馬地方の源流地としての機能維持のためにも、地域の活性化を図り農林地を保全することは緊急課題であり、基幹産業としての農林業を持続しながら、農地などの保全・利活用を視野に入れた地域整備を進める必要がある。</p>			
評価の結果	着手妥当	左の理由	上記内容により着手が妥当と認められた。		

